

パン・アキモト社長 秋元 義彦



至言 提言  
とちぎの  
**現場**  
から

東日本大震災以降、弊社の経営環境は激変しました。弊社の「パンの缶

になりました。外部の方は弊社の工場は二二三交

ニケーションが取れていないのに、仕事が山のようになり、不具合品やトラブルが発生することを防ぐのが狙いでした。同時に、プロとして「お客さまが喜ぶ製品とサービスの提供」の対価として代金を頂くことを確認して

大震災が残したもの

社員の意識も変化

そうした基本がおろそかになり、不具合品やトラブルが発生することを防ぐのが狙いでした。同時に、プロとして「お客さまが喜ぶ製品とサービスの提供」の対価として代金を頂くことを確認して

当然のことながら被災地支援はまだ必要で、これからは他の企業を巻きこんで継続的な支援をしようかと社員と話をしています。先月下旬にはサンリオとの共同事業として「東北支援キティ缶」を配布しました。被災地の子供たちは一瞬でも笑顔が戻ったのは成功の証明でした。震災をきっかけに、弊社社員の意識も変化してきました。それが今後どうなっていくのか、ひそかに楽しみにしています。

詰」が備蓄食品として注目を集め、注文が急増したのです。本社工場も沖縄工場もフル稼働で、製造部の社員は早朝から出勤し、総務部と営業部の社員は夜遅くまで事務処理に追われるよう

代制だと思っっているようですが、連日の残業で注文をこなしているのです。そうこうしているうちに、社内のおちこちでひずみが出るようになりま

・連絡・相談・打ち合わせ・根回し・気配り」と書いた紙を掲げ、毎朝、唱和することになりました。相手を思いやる日本的「心の経営」の実践です。効率を追求するあまり

社員間の意思疎通がスムーズになり、以前のよう

たのは成功の証明でした。震災をきっかけに、弊社社員の意識も変化してきました。それが今後どうなっていくのか、ひそかに楽しみにしています。